# 柳井医療センターだより

第　１　号
〈発　行　所〉
国立病院機構
柳井医療センター
〈発行責任者〉
住元　了

## 平成26年１月　新春のご挨拶

**院　長　住元　了**

新年明けましておめでとうございます。

常日頃は柳井医療センターの病院運営にご尽力賜り熱く御礼申し上げます。

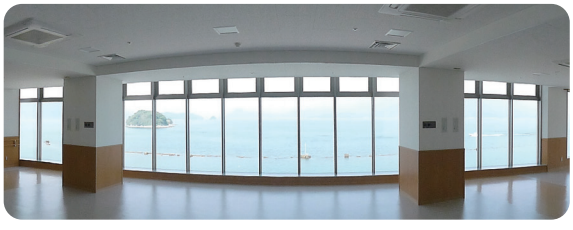
新年のご挨拶を申し上げます。今年最大の国政的イベントは4月から始まります消費税増税（5%から8%）でございましょう。アベノミクスで回復しつつある景気や脱デフレが増税により腰折れしないことを願うばかりです。この消費税増税は、我々医療界にも大きく影響を及ぼしていることは言うまでもございません。現に平成26年度の診療報酬改定は実質的マイナス改定と判断せざるを得ません。今後とも医療環境は益々厳しさを増してきますがなんとか知恵を出して難局を乗り越えていこうと考えています。

翻って、当院の最大のイベントといえば、この4月に予定されています日本医療機能評価の受審でしょう。多忙な診療業務の間をぬっての準備ですがこれをいい機会と捉え、病院の足りない部分を改善し、より素晴らしい病院にステップアップしたいと思います。

昨年5月に新病棟が完成いたしました。これから外来管理棟の建設に移ります。また今年は外来診療科を充実させ、地域の皆様方により利用して頂こうと考えております。柳井医療センターは地域に根ざしながら益々発展して参ります。皆様方のご理解ご協力何卒宜しくお願い申し上げます。

**理　念**

一　良質の医療を提供します
一　素晴らしい療養環境を提供します
一　患者様満足度の向上に努めます
一　職員満足度の向上に努めます



## 当院の透析治療について　　院　長　住元　了

昨年5月に完成した透析センターは付属棟3階の周防大島と瀬戸内海を眺望する景色のいい場所にございます。現在コンソール22台を稼動させていますが、最大25台まで収容可能です。5年前に第1例目を開始して以来現在43名の入院透析患者の治療にあたっています。

当院は日本透析医学会専門医制度教育関連施設に認定されており4名の外科医、4名の臨床工学技士、6名の看護師で患者の管理をおこなっています。オンライン、オフラインHDFは言うに及ばず、神経難病患者に対する血漿交換、血液吸着療法も行っています。またPTA（経皮的血管拡張術）も月平均７～8回のペースで定期的に行い、きめ細かいシャント管理もおこなっています。当院透析センターの役割は１）老老介護、認認介護、ロコモティブシンドロームによる通院(歩行)困難な所謂、社会的受け入れ２）脳卒中後遺症に対する集中リハビリ目的のための入院、３）濃厚な医療的介在が絶えず必要な患者の受け入れ：栄養摂取困難例に対する胃瘻栄養管理、高カロリー輸液管理、誤嚥を繰り返す症例に対する嚥下訓練、肺炎治療、気管切開、人工呼吸器管理、重度褥瘡治療、四肢壊死を有す外科的、内科的治療、長期留置型バスキュラーカテ挿入及び長期管理であります。今後とも近隣の透析施設と緊密な連携をとりつつ地域医療に貢献してまいりたいと思っています。

## 神経難病について　　副院長　宮地　隆史

当センターの特徴である神経・筋疾患の医療についてご紹介します。当センターでは平成12年より神経難病病棟を開設し、政策医療の一つである神経・筋疾患の医療を担ってきました。昭和47年の難病対策要綱で難病とは、(1)原因不明、治療方針未確定であり、かつ、後遺症を残す恐れが少なくない疾病、(2)経過が慢性にわたり、単に経済的な問題のみならず介護等に著しく人手を要するために家族の負担が重く、また精神的にも負担の大きい疾病と定義され、最近では稀少であることも定義に含まれております。難病疾患の中では、特定疾患治療研究事業として56疾患が医療費等公的補助の対象となっています。現在、難病新法の制定にむけて準備がすすんでおり、今後、公的補助の対象疾患が約300疾患となる可能性があり、医療費を含め難病医療をとりまく環境が変化して参ります。この難病の中には神経内科医が係わる疾患（いわゆる神経難病）が多くあります。たとえば、運動神経が選択的に障害される筋萎縮性側索硬化症、振戦、動作緩慢、歩行障害などを呈するパーキンソン関連疾患、ふらつき、言葉がしゃべりにくくなる脊髄小脳変性症などの変性疾患、再発寛解を繰り返す多発性硬化症、筋力低下をきたす多発筋炎や重症筋無力症、手足の運動・感覚障害を呈する慢性炎症性脱髄性多発神経炎などの自己免疫疾患等が含まれます。また神経内科では難病に限らず、片頭痛やてんかんなどの頻度の多い一般的な疾患、超高齢社会の本邦において増大しているアルツハイマー型認知症などの認知症疾患や脳卒中など幅広い領域の医療を担っています。当センターは山口県東部地域を中心に一般神経内科疾患の医療を行うとともに、特に専門性を要する神経難病、長期療養を要する神経難病については広く山口県下全域及び広島県からの入院も受け入れています。更に国立病院機構の役割の一つとして神経難病についての研究にも取り組んでおります。これからも病院全体として神経難病、一般神経疾患の医療・研究に真摯に取り組んで参ります。

## やさしさは人のこころの原動力　　診療部長　大森　啓充

私は、昭和61年に、当時愛知県心身障害者コロニー「こばと学園」の岡田喜篤園長(現日本重症児福祉協会理事長)の御紹介で、旭川荘の重症心身障害児施設「旭川児童院」に勤務させて頂いたのが、障害児医療に携わる最初でした。
以後、広島、愛媛を中心に障害児医療に携われました。平成20年4月から2年間は、愛媛県立中央病院で発達小児科部長兼総合周産期母子医療センター副センター長として、救急小児医療とpost-NICU 児のいわゆる“超重症児”の在宅医療支援に携わり、平成22年4月から独立行政法人国立病院機構柳井医療センターに勤務しております。

障害児医療に関わる一人として、少し自分の思いを述べてみたいと思います。

私の好きな言葉に、『やさしさと思い遣り』、そして『愛』という言葉があります。「思いやり」という言葉を広辞苑で引くと次のように書かれています。1) 思いやること 2) 気のつくこと そして、3) 自分の身にくらべて人の身について思うこと。相手の立場や気持ちを理解しようとする心などとあります。

また、聖書の『コリント人への第一の手紙ー第十三章』は、『愛』(Charity, Love)について書かれたものですが、「愛は寛容であり、愛は情深い。また、ねたむことをしない。愛は高ぶらない、誇らない・・・そして、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを耐える。愛はいつまでも絶えることがない。―いつまでも存続するものは、信仰と希望と愛と、この三つである。このうちで最も大いなるものは、愛である。」とあります。
キリスト教でいう『愛』には、「神の人間に対する愛」、「人間の神に対する愛」、そして『人間の人間に対する愛』の三つがあるといわれています。

最近、医療現場では、『心ある医療』ということがよく聞かれます。医師と患者・家族との関係は、まさに人間と人間との関係であり、基本的にはひとりの人間として、敬い、思い遣って付き合っていくこと、自分を大切にし自分を愛するのと同じぐらいに人を愛することが、今一番大事なことなのではないでしょうか。
ありふれた言葉ではありますが、この『やさしさ』こそが、ひとの心の原点のように思います。このことをもう一度よく考え、初心に帰って、地域に根ざした医療福祉サービスと障害児医療・福祉の充実ために、微力ですが頑張って行く所存です。まだまだ勉強することが多い身ですので、皆様方の御指導・御協力の程、何卒宜しく御願い致します。

## 「いのちをつなぐ、こころをつなぐ看護」　総看護師長　神田　弘子

平成24年4月に柳井病院から柳井医療センターへ改名し、3年目を迎えようとしています。
当院は、神経筋疾患患者を主とし、重症心身障害児（者）、入院患者の人工透析、24時間腹部救急患者を受け入れている280床の病院です。看護体制は、10：1を取得し、障害者入院基本料を取得しているため、各病棟に障害をもっている患者さんが、70%以上入院されています。

この２年間で、看護師数は、147名から161名と増員。昨年6月に平屋の６個病棟から５階建ての病棟へ移動編成するとともに、看護師２人夜勤体制から３人夜勤体制へ変更し、夜間の看護の充実を図りました。と同時に看護の理念も、誰もが心に留めることが出来る言葉へ改めました。

フローレンス・ナイチンゲールは、「看護を行う私たちは、人間とは何か、人はいかに生きるかをいつも問いただし、研鑽を積んでいく必要がある。」と言っています。私たちは、原因が究明できていない難病患者さんを目の前に、倫理的な視点を養い生きることの意味を考え、看護してゆかなければなりません。まさに現場では、呼吸器を装着し体の動きがだんだん消失してゆき、瞬きや眼球のみが動き意識が清明な患者さんへ、看護師たちが、日常の中でスムーズに関わっている姿をみて、看護師になったからと言ってすぐ出来るものではないと思いました。熟練した看護師だからこそ出来るのだと実感しました。また、長期入院を強いられる患者さんへ寄り添いたいという思いをこめて
「いのちをつなぐ、こころをつなぐ看護」としました。

基本方針は、
1.患者さんの安全を第一に
2.身体機能の低下を早期に察知し、苦痛の軽減に努める
3.残存機能を生かし満足いく生活が送れるよう創意工夫をする
4.自らの感性を磨き、患者さんに寄り添うことが出来る
5.専門職としての責任をもち、継続的学習に努める
にしました。

今、病棟のデイルームは、院長考案のアーチ型の全面ガラス張りで、瀬戸内海の島々が景観できるようになっています。すなわちベッド上の患者さんも外出せずにして、穏やかな海と山、西に沈む夕日を眺めることが出来るのです。このデイルームでは、難病患者さんへ音楽療法なども実施し、患者さんの心も体も癒されるよう看護師のみならず多職種による患者ケアを実施しているところです。温かくなれば、外出し四季折々の草花を見ることが出来ます。また、車椅子で園芸作業が出来るようになっています。治療を受けながら、この豊かな自然をも患者さんの心を癒し、穏やかに満足いく入院生活が送っていただけると思っています。

## 柳井医療センターにＭＲＩが導入されました。　診療放射線技師長　折口　篤志

平成25年10月よりかねてから待ち望んでいました1.5ＴのＭＲＩ装置が導入されました。

ＭＲＩ導入によって、特に神経内科分野の診断に役立つことが出来るようになりました。

当センターのＭＲＩ検査は頭部・脊椎中心となっていますが、腹部臓器（ＭＲＣＰ等）・婦人科領域・整形領域・耳鼻科領域・眼科領域・下肢血管（非造影）等幅広い分野を撮影することが出来ます。

以前はＣＴのみで診断するとこが出来ず、地域の病院にお願いしてＭＲＩ検査を実施してきましたが、新設後は診察当日にＭＲＩ撮影が可能になり患者様の負担を大幅に減らす事が出来ました。当院のＭＲＩ検査はＣＴや一般放射線撮影と同様に365日24時間撮影可能な体制で稼働しています。

新設されたＭＲＩ室は、旧病棟の跡地に新しく建設され現在の外来棟・放射線棟とかなり距離があり患者様には迷惑をお掛けしていますが、新外来棟が出来ますと、外来の一部となる予定です。

ＣＴ検査同様にＭＲＩ検査も遠隔読影システムを利用し、撮影したＣＴ・ＭＲＩ画像はネット配信・ＣＤ・フィルム等希望の方法でお渡ししています。当日検査、読影も可能でスピーディーな検査、読影を目指しています。

読影は遠隔読影会社と契約した放射線専門医により全症例提供していますので、是非とも当院の画像検査・画像診断システムを利用下さい。

今後とも、地域医療に貢献していきたいと思いますので宜しくお願いします。

# 外来診療担当表

平成26年１月１日現在　　国立病院機構柳井医療センター

| | | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 内科 | | － | 松本　信夫 | － | 松本　信夫 | 松本　信夫 | |
| 神経内科 | 初診 | 宮地　隆史 | 六車　朋子 | 村田　芳夫 | 山﨑　雅美 | 福塲　浩正 | |
| | 再診 | 福塲　浩正 | 福塲　浩正 | 宮地　隆史 | 宮地　隆史 | 宮地　隆史 | |
| | 再診 | 村田　芳夫 | 村田　芳夫 | 上利美智子 | － | 山﨑　雅美 | |
| | 再診 | 六車　朋子 | － | － | － | － | |
| 外科 | 初診 | 住元　　了 | 竹本　将彦 | 住元　　了 | 池田　政宣 | 石田　伸樹 | 火・木曜日<br>午後手術日 |
| | 再診 | 池田　政宣 | 石田　伸樹 | 田村　泰三 | 田村　泰三 | 安澤　紀夫 | |
| | 再診 | － | － | 安澤　紀夫 | 竹本　将彦 | － | |
| 循環器内科 | | － | － | 小田　　望<br>（広島大学病院） | － | － | |
| 内科<br>（肝・胆・膵・消化器） | | 福原　崇之<br>（広島大学病院） | － | － | － | － | |
| 内科<br>（糖尿病・内分泌） | | － | － | － | － | 長野　　学<br>（広島大学病院） | |
| 内科<br>（内視鏡） | | 松本　信夫<br>福原　崇之 | － | － | 第１・３週<br>中村　松美 | 第４週<br>平田　尚志<br>（岩国医療センター） | |
| 皮膚科 | | － | 第２・４週<br>平郡　隆明<br>（広島大学病院） | － | － | － | |
| 泌尿器科 | | 広島大学<br>病院医師 | － | － | － | － | 午　　後 |

**専門外来**　●発達療育 相談外来（随時）　※専門外来への受診には事前予約が必要となります。


**電　話**　0820－27－0211（代　表）
**ＦＡＸ**　0820－27－1490（連携室）
**メール**　6210sy01@yanai.hosp.go.jp
renkei@yanai.hosp.go.jp
**ＨＰ**　http://yanai-hosp.jp/


**外来受付時間**
8時30分～12時00分

出張・休暇等の理由により、担当が変更となる場合がありますのでご了承ください。